

夏休みは、**ダイナミック**な成長の機会と環境をゲットする**絶好**のチャンス!

特設サイト 申し込みはWEBサイトで



[受付期間] 会員 6/7 [火] 10:00-
一般 6/14 [火] 10:00-

※サマープログラムは「子ども支援基金」対象プログラムです。詳しくはホームページをご覧ください。

サマープログラム2022



夏の思い出を等しく子どもたちにキャンペーン

子どもの貧困に取り組むために 「子ども支援基金 (BAPY)」 協力をお願い

この2年間続いた新型コロナウイルスの感染拡大は社会に様々な影響を及ぼしました。感染拡大防止のために事業休止や縮小が求められ、経営を持続できずに廃業・失業した人々もいます。その影響は家庭、特に子どもたちにも及んでいます。

日本では、7人に1人の子どもが相対的貧困状態にあると言われ、世界的に見ても、先進国の中でも、その割合が高いとされています。特に、ひとり親家庭の子どもたちにその傾向があり、新型コロナウイルス感染症拡大が拍車をかけていると見られています。これらの家庭の子

どもたちは、経済的な困難を背景に、教育や体験の機会にも乏しく、社会から孤立しやすいと言われています。

京都YMCAが毎年行ってきたサマーキャンプでは、野外での様々な体験を通して、子どもたちが生きる力を身につけ、仲間と協力して物事を進めることで、人間関係の構築や心身の成長を促す活動を行ってきました。

しかし、様々な事情により家庭で養育ができず施設に入所する子どもたちや、経済的事情でプログラムに参加できない子どもたちは、そういった教育・体験学習の機会を持つことができ



ません。

これまで、京都YMCAでは、「子ども支援基金 (BAPY)」を活用し、YMCAプログラムに参加したくてもできない子どもたちへ参加費を援助してきました。この基金を用いて、より多くの子どもたちに京都YMCAのサマーキャンプに参加してもらおうと、今回、「夏の思い出を等しく子どもたちにキャンペーン」を実施することにしました。

キャンペーン実施にあたり、広く市民の皆様へ寄付を募ります。この取り組みにご賛同いただいた皆様からの寄付は、経済的な理由で参加できない子どもたちや、市内の児童養護施設の子供たちが、サマーキャンプで楽しい夏の思い出を作るための支援に活用します。

すべての子どもたちに、等しく夏の楽しい思い出を。皆様のご協力をお願いいたします。

キャンペーン期間 ● 2022年5月～8月

寄付金 ● 目標50万円 (約10名の子どものYMCAキャンプ参加費として)

寄付で支援したい方 ▶ 振込または三条本館1階にて受け付けております。

[寄付額] 1口3,000円 / 10,000円

[振込先] 郵便振替 01050-7-19132 公益財団法人京都YMCA奉仕活動基金

※通信欄に「夏の思い出キャンペーン」とご記入ください。

お問い合わせ先

[キャンペーンの利用について]

ウエルネスセンター wellness@kyotoymca.org

[寄付について]

会員活動部 honbu@kyotoymca.org

キャンペーン詳細は
こちらからご覧ください ▶



SDGs理解セミナー

アフリカケニアで暮らす子どもとマサイの暮らしから学ぶ

日時 2022年6月4日 (土) 14:00-16:00 (13:30受付開始)

会場: キャンパスプラザ京都2階ホール

参加費: 一般3,000円、京都YMCA会員2,000円

定員: 90名 (事前申し込み・先着順)

主催: 公益財団法人京都YMCA 共催: 京都府キャンプ協会

お問い合わせ先 ウエルネスセンター 075-255-4709



SNS / メール配信サービスのご案内

京都YMCAの情報をweb上でもご覧いただけます。メール配信登録は、QRコードからアクセスの上、ご登録ください。



SNSも是非チェック & フォローをお願いします。





ウクライナ募金

避難者支援

ロシアが2月24日にウクライナに侵攻してから数か月が経過しましたが、戦争による犠牲者は増え続けており、ウクライナの人々は恐怖と不安の中、苦しい状況に置かれています。

京都YMCAは日本YMCA同盟の呼びかけに応じて、京都YWCAと協力して3月から緊急支援募金に取り組みました。4月までに皆様から多くの募金をお預かりしております。

4月23日に、京都YWCA主催・京都YMCA協力で開催された「京都YWCAイースター&会員日集会」では、日本在住のウクライナ女性からお話を伺い、日本のYMCA・YWCAからウクライナ支援の取り組みについて報告がありました。

集会でインタビューに応じてくださったウクライナ女性、アンナさんからは「すべての人の生活が守られますようにと毎日祈っている。日本の皆さんにお伝えしたいのは、どんな支援をしてくれるのか、日本に避難するウクライナ人へのサポートについての情報が分かりにくいということ。はっきりと、まとまった、分かりやすい情報発信がほしい。」という支援上の課題も提起されました。

侵攻直後からウクライナや近隣諸国のYMCAは、緊急生活支援を続けており、緊急生活支援やメンタルヘルスケア、24時間体制での避難民受け入れのサポートをしています。

また日本のYMCAでは、日本YMCA同盟を中心に、募金活動のほか、ヨーロッパYMCA同盟と連携し、ウクライナからの避難民を日本で受け入れる支援を行っています。4月28日時点で、39組87人の支援につながっています。渡航手続きから日本での生活基盤の構築まで、支援は多岐にわたります。

先の集会で、日本YMCA同盟の横山さんは「一番重要なことは、日本に避難したウクライナの人々が日本のコミュニティになじめるかということ。言語や文化の壁、地域行政の支援のばらつき、避難民への支援情報が分かりにくいことが、今後の課題である。また、現地（ウクライナ）の被害状況は地域によって異なり、日本での受け入れ家族の経済状況等も人により事情は様々。定型のサポートというものはない。個々人の状況に応じたサポートが必要。」と指摘しました。継続的な支援や情報発信のあり方が問われています。

YMCAでは、今後もウクライナの人々への支援を行っていきます。引き続き、皆様からのご協力をお願いいたします。

ウクライナ緊急支援募金 第2次募集【8/31まで受付】

■ 郵便振替で寄付

01050-7-19132 京都YMCA奉仕活動基金
通信欄に「ウクライナ緊急支援」とお書きください。

■ クレジットカードで寄付

QRコードを読み取ってお申し込みください。※日本YMCA同盟の寄附サイトで




ウクライナ避難者サポート
ポータルサイト

<https://helpinjapan.info/ja/ja-home/>



春の報告


3/20 ヴルストパーティー @リトリートセンター



ほっぺたがおちそう!


ウェルネス会員のリングバルトさん指導のもと、ドイツ流に焚火でソーセージを焼いてザワークラウトとともにパンにはさんで食べました。

4/2 入園式はじめてましてこんにちは YMCA三条保育園・YMCA高倉おさなご園



色とりどりに咲く花やふんわりあたたかな風ややわらかい日差し、あっちにもこっちにも生命力を感じる保育園の新しいスタートです。

4/10 さくらフェスタ @リトリートセンター



好日のもと、約200人がご来場。会員ボランティアの皆さんによる10のお店が開かれ、にぎやかに、なごやかに開催されました。

寄付感謝

- ・京都橘ライオンズクラブ様より
結成60周年を記念して
青少年育成事業に100万円寄付
- ・一般財団法人G-Place財団様より
ウクライナ緊急支援に25万円寄付

上記の団体以外にも、多くの皆さまよりご寄付をいただいております。感謝してご報告いたします。

連載 第4回「共に生きるための振り返り」

聖書の教えから現代社会を生きるヒントを。

この連載は毎号違う牧師が寄稿する「リレー形式」でお届けしていきます。

共に生きる

篠澤 俊一郎 さん

日本ナザレン教団花園キリスト教会 牧師

ヨハネによる福音書15章5節

私はぶどうの木、あなたがたはその枝である。人が私につながっており、私もその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。私を離れては、あなたがたは何もできないからである。

今の世界は疫病・戦争・災害などまさに混沌の中にあり、「共に生きること」は自明の理であるにも関わらず、なかなかそれを実行することは大変難しいことです。

私は、教会にて地域支援としての子ども会・入場無料の淡水魚水族館を運営する中で、様々な業種・環境の大人や子どもに大勢出会ってきました。その活動の中で「共に生きる」ということを考えるのであれば、それは「奉仕する」ことにつきまします。ただ「奉仕する」といっても「その主体はなにか」ということを常に考える必要があります。また「奉仕する際に自分が主体になってはいないだろうか？自分の力・自分の考えだけになっていないだろうか？」と。

聖書には「私はぶどうの木、あなたがたはその枝である。」と記しています。なるほど、奉仕の主体は「愛である主イエス・キリスト」であり、そして私たちがその枝であるというのです。わたしもこれまで様々な問題に直面してきましたが、この主体が「イエス・キリスト」であるおかげで励まされ乗り越えてきました。

あなたも「共に生きること」の意味に迷ったら「イエス・キリストの愛」に触れてみてはいかがでしょうか。